



航海獎勵法

1372

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

114
A2678
1

大正十一年四月
俊爵郵寄贈



航海獎勵法

第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主ト
事會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ
登録タル船舶ヲ以テ帝國ト外國トノ間入ハ外國計
港、間ニ於テ貨物旅客ノ運搬ヲ營業トスル者ニハ此
法律ノ規程ニ依リ其ノ船舶ニ對シ航海獎勵金ヲ下
付ス

第二條 此ノ法律ニ依リ航海獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ
船噸數一千噸以上ニシテ一時間十海里以上ノ最強速
力ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シタル鋳
製又ハ鋼製汽船ニ限ル

第三條 航海獎勵金ヲ受けタル船舶ノ所有者ハ其

、船舶ニ對シ豫々遞信大臣、認許ヲ受ケレ

第四條

左ノ船舶ハ航海獎勵金ヲ受ケルトヨ得ス

第一

第
二

此ノ法律施行以後帝國船籍之登録、際製造後

五箇年ヲ経過シテ外國製造ノ船舶

第
三

第
四

帝國政府ノ命令ニ依レル航路ニ使用スル船舶

第五條、航海獎勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里、最強速力ノ有スル船舶ニ對シ總噸數一噸航海里數一千海里ニ付二十五錢ヲ支給レ總噸數五百噸以入毎、其ノ百分ノ二十ヲ増給大但レ總噸數六十五百噸以ニ其ノ百分ノニ十ヲ増給大但レ總噸數六十五百噸以上スルノ最強速力一時間十八海里以上ノ船舶ニ對シテ

八級噸數六千噸又ノ最強速力一時間十七海里ノ船舶ニ對スル割合ニ依リ支給入
航海獎勵金ハ製造後五箇年ヲ経過セサル船舶ニ對シテハ全額ヲ支給シ五箇年ヲ経過レタル船舶ニ對シテハ一年毎其ノ百分ノ五ヲ遞減ス

航海獎勵金ヲ算定スルニハ一噸未滿一海里未滿ノ端數ヲ算入セ入

大

第六條、航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ之ヲ算定

帝國各港、寄港シ外國一港航スル船舶ニ在テハ最終ノ寄港地ヲ起點トシ又外國ヨリ販航シ帝國各港ニ寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トレテ其ノ

貨物旅客、積卸ヲ為セシ

明治廿九年十月一日以後帝國船籍之登録ノ際製造後五箇年ヲ経過スル外國製造ノ船舶

第
一

第
二

第
三

第
四

帝國政府ノ命令ニ依レル航路ニ使用スル船舶

第五條、航海獎勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里、最強速力ノ有スル船舶ニ對シ總噸數一噸航海里數一千海里ニ付二十五錢ヲ支給レ總噸數五百噸以入毎、其ノ百分ノ二十ヲ増給大但レ總噸數六十五百噸以ニ其ノ百分ノニ十ヲ増給大但レ總噸數六十五百噸以上スルノ最強速力一時間十八海里以上ノ船舶ニ對シテ

航海里數ヲ算定ス

航海里數ヲ證明スニハ寄港地官廳ノ寄港證明ヲ以テス一レ

第7條 適信大臣ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ
第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ヲ公用ノ為ニ使用スルコトヨ得

船舶所有者前項ノ給與金額ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日より三箇月以内ミ裁判所ニ出訴スルコトヨ得

前項ノ出訴ハ使用ヲ停止セス

第8條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ適信大臣ノ命令ニ依リ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以

テ航海修業生ヲ該船舶ニ乗組マレメ同大臣ノ定ムル手當ヲ支給ス一レ

經噸數一千噸以上二千五百噸未滿

二人

經噸數二千五百噸以上四千噸未滿

三人

經噸數四千噸以上

四人

第九條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ適信大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本支店，事務負若ハ該船舶ノ贋負ト為スコトヲ得ス但レ外國ニ於テ死亡其ノ他止ムト得サル事故ニ因リ船舶贋負ニ缺員ヲ生レタルトキハ該地官廳ノ公認ヲ経テ之ヲ補フコトヨ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ適信大臣ノ許可ヲ請フ一レ

第十條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ遍信大臣、命令ニ従ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無償乗船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物、小色郵便物、郵便用品及小色郵便用品ヲ無料ニテ遞送スヘレ

第十一條 第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承継人ハ航海獎勵金ヲ受ケ航海スル期間並其ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、貸渡、交換、贈與、買入、書入スルコトヲ得ズ但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スカラナリ強制ニ因リ航行ニ堪サルトキ若ハ遍信大臣、許可ヲ得タルトキハ此ノ限

ニ在テス

第十二條 遍信大臣ハ此ノ法律ニ依テ船舶所有者ノ義務ニ屬スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代理人若ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條 詐偽ノ所為ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加入

前項ノ罪ヲ犯サリトシテ未ク達ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處断ス

第十四條 此ノ法律ニ依リ遍信大臣、發スル命令又ハ

第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以

下ノ罰金ニ蒙入

第十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱處ノ例ヲ用耳ス

第十六條 託偽ノ所為ヲ以テ航海獎勵金ヲ受ケタル者ハ其ノ因テ得タル金額ヲ償還セレン 第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ其ノ既ニ受ケタル航海獎勵金ヲ償還セシム

第十七條 船舶所有者此ノ法律ヲ犯シタルトキハ遞信大臣ハ航海獎勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得 第十二條ノ場合ニ於テ其ノ代人又ハ船長ノ犯シタルトキ亦同シ

第十八條 前數條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條

ニ掲クル所為ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十九條 八此ノ法律ハ明治十九年十月一日ヨリ施行

航海獎勵金此ノ法律施行日ヨリ滿十五年間之ヲ支給ス

附則

第二十條 此ノ法律明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 明治二十九年法律第十五號航海獎勵法ハ此法律施行一日ヨリ廢止ス

第二十二條 八此法律施行以前帝國船籍登録シテ船舶及此ノ法律施行以後一箇月内、逕信大臣ニ製造、届出ヲ爲シ明治三十一年三月三十日迄ニ帝國船籍登録瓦船舶ニ總額五百頓ナ增ス每ニ第五條ノ航海獎勵金定率一百九一十丁増給ス

114
A 2678
2

乙 號

一 卷百卷拾九万九千卷百卷拾大四

歐米ニ航路補助費年額

内 譯

一 貳百六拾貳万八千四拾八円

歐州線補助費

一 七拾七方壹千貳百八拾八円

米國線補助費

右三十年度ニ於テ下半期ヨリ助成金ヲ下付スルモトセハ二航路、對レ百大拾九万九千六百大拾八円ノ支出ヲ要ス

說 明

歐州線定期航海要領

一 發着港及寄港地 往航ハ横濱、奉神戸、門司、香港、新嘉坡、コロンボ、ポートセワード、馬耳塞、倫敦、アントヴァーブ、著復航ハアントヴァーブ、ポートセワード、コロンボ、新嘉坡、香港、神戸、横濱著

一一ヶ年航海度數

二四四

大正十一年正月
大隈儀蔵
贈

一一往復航理數

二三、四八六海里

一一ヶ年延長航海浬數

五六三、六六四海里

一使用船數

一二艘

一平均一艘，總噸數

五、八。噸

一同登簿噸數

三、六。噸

一同速力

一四海里

一同船價

八六八、五。円

一本航海對支收支，概算ヲ掲クハ左ノ如レ
一ヶ年收入總額

二、二四二、五一二円

一ヶ年支出總額

四、八七九、五六。円

收支差引不足

二、六二八、四八円

米國線定期航海要領

一發著港及寄港地，往航ハ香港、門司、神戶、橫濱、布哇、桑薩著

復航ハ桑薩發橫濱、神戶、香港著

一一ヶ年航海度數

一二回

一一往復航理數

一三、七九八海里

一一ヶ年延長航海浬數

一六五、五七六海里

一使用船數

三艘

一平均一艘，總噸數

五、六三。噸

一同登簿噸數

三、一。噸

一同速力

一五海里

一同船價

一〇、二〇、〇〇〇円

一本航海對支收支，概算ヲ掲クハ左ノ如レ
一ヶ年收入總額

四六四、六四。円

一ヶ年支出總額

一、二三五、九二八円

收支差引不足

七七一、二八八円

備考

前記三航路ニハ航海獎勵金ヲ受クキ船舶ノ充用スレし依テ果シテ之ヲ
開クトキハ一方ニ於テ補助費ヲ要スルト共ニ他ノ一方ニ於テ航海獎勵金ノ支給
額ヲ減スベシ今補助費ト航海獎勵金支出し見込額トノ増減、掲クハ左ノ如シ

年次	獎勵金見込額	定期航海開始 保有額サ額		定期航海補助 費額	合計額
		残額	額		
三十年度	一七二〇・三一三八三八	三一八・大一五八四	一四〇・一大九七九八一	一六九九六六八〇〇	三一〇・三六五九八一
三十一年度	一四四七・六八八元二	二六二六・二〇	三九一・一八〇・一六六七・九三三	三三九九三三六〇〇	五二〇・一〇〇三九三